海外輪行へのいざない

（ドナウ河の旅から）　　(2012. 6/18～7/3)

冨本　浩嗣

今年 6 月 18 日から 15 日間の日程でミュンヘンを起点としてウイーンまで自転車で走り帰国した。私にとっては 4 年前のライン川(上流のマインツから北海まで)に続く、2 度目の海外輪行である。今回のドナウ川輪行の旅は、驚くほどに整備された自転車専用道路とその素晴らしい景観、また、最近愛用のロードバイクによる初の海外体験であったこともあり大変思い出深いものになった。

海外輪行というと、体験前の私もそうであったが、費用や準備等の関係で何か大変なような気がするが、基本的には国内輪行と全く変わりはない。自転車を袋に詰めて手荷物とすると飛行機で気軽に運べるし、費用も自転車の特性を生かして郊外の安価な宿に泊まる等で意外に安く済む。もし一週間程度のお休みが取れるなら、現役で働いている方々も含め、誰にでも海外輪行は可能である。言葉の問題も、高校で履修した程度の英語力があればどこの国へ行ってもまず心配はない。今回、私達(3 名、平均年齢 69 歳)が辿ったルートは、道路の分かり易さと、道沿いにある観光案内所(ツーリスト・インホメーション)、宿泊施設、自転車屋等から、私のような自転車歴が浅い人間や海外輪行に不慣れな人間にも安心して走れるコースである。今後、海外での輪行を楽しみたいと思われる方のために、今回の私達の旅を紹介し、海外輪行の参考に供したい。

今回の旅の概括は、ANA の直通便があるミュンヘン空港を発着地とし、行きは自転車でミュンヘン市内を流れるイザール川を下り、ドナウ川と交わる地点でドナウ川自転車道に入り、そこから世界遺産のワイン畑で有名なバッハウ渓谷等の景観を楽しみながらウイーンまで下り、ウイーン市内を観光後、電車を使ってミュンヘンに戻り帰国する行程である。全日程 15 日間の旅で、自転車での全走行距離は 550km、一日の平均走行距離は約 50km であった。ちなみに、50km は普通に走っても 3～4 時間の距離であり、夜の 9 時頃まで明るい現地では十分観光を楽しむことができ、自転車の旅というよりは、自転車を移動手段とする観光の旅である。

旅行日程と大まかなコースが決まったら、まず準備することは、自転車用の道路地図の入手と、航空券及び宿の手配である。自転車で走るための地図や案内書の入手については、欧州、特にドイツ、オーストリアを走る場合は全く問題ない。これら国では、自転車愛好家のために、国中の自転車用道路を網羅した詳細な地図付きの案内本（ドイツ語で書かれているが英語の注付きで、自転車用道路、宿、食堂、自転車屋、観光名所等サイクリストのための必要事項が全て記載されている）が各コース別に発行されており、これら本は日本でも容易に手に入る。ちなみに、今回、私達が購入した本は、Isar-Radweg (イザール自転車道)と Donau-Radweg Teil 2 / Von Passau nach Wien（ドナウ自転車道、第Ⅱ分冊、パッサウからウイーンまで）の二冊である。これら本は本屋での取り寄せとインターネット

（アマゾン）により購入したが、我々の経験ではアマゾン経由の方が安価で、入手までの期間（約 1 週間）も短く便利であった。航空券はなるべく安く入手するなら、2～3 ヶ月前の早割切符をお勧めしたい。また、今回の旅行で知ったが、6 月 10 日以降はどこの航空会社も夏季料金体系となって価格が少し高くなるので、出来ればそれを避けての日程を選ぶのがよい。次に宿の確保であるが、今回の我々の旅行では、日程に縛られない旅を楽しむため、到着日と帰国日を除き、宿は全て旅先の現地で調達した。結果的にはこれは正解であり、今回の旅で何より印象深いのは、現地で見つけた農家のゲストハウスがいずれも安い(朝食付き一泊 2,300～4,000 円)上にアットホームで、自家製の野菜や果物が並ぶ朝食等も素晴らしく、本当によい思い出となった。ちなみに、現地で宿を探す場合、到着地にある観光案内所を訪ね、そこで紹介してもらうのが一番便利である。また、翌日の宿だけであれば、前日に泊まった宿の主人にお願いし、電話で翌日の宿を予約して貰うのもよい。

衣類等は、現地で洗濯して使うことを前提に、なるべく少なく持参するのは当然であるが、その意味からも　軽装で洗濯物が乾き易い初夏から初秋にかけての期間を選ぶのが好ましい。ちなみに、今回の旅のコースは、雨が少ない点を除けば神奈川県の気候とあまり違いがなく、全行程、簡便な雨具と夏服での走行が可能であった。また、お金に関しては、大きなお店や市街地は全てクレジットカードが通用するが、自転車の場合は、田舎の小さなお店での支払いや農家での宿泊等も多いので、出来れば十分な現金を持参することをお勧めしたい。ちなみに、今回のコースは全てユーロ(€)圏内にあり、治安もかなりよいため、全額現金での決済を前提に、少し多めの額の€800（80,000 円；宿泊費込一日経費 5,000 円×14 日＝70,000 円+10,000 円と計算）を持参したが、これで十分であった。

以上で準備完了、後は出発を待つだけであるが、最後に飛行機で自転車を手荷物とする際の注意事項を付記したい。手荷物が無料となるには、エコノミークラスの場合、重量が 23kg 以下(2 個まで)、サイズが縦×横×高さ(幅)の和が 203cm 以下の制限がある。通常の場合、輪行袋に収納した自転車はこの範囲を超えないため、超過料金が発生する心配はない。今回、私は、ロードバイクを初めて航空便で運ぶことに不安を感じ、丈夫な段ボールのケースに入れて手荷物としたため超過料金（往復 15,000 円）を取られたが、これは今思えば無駄な出費であった。少なくとも、日本の航空会社の場合、事前に自転車を手荷物とすることを航空会社へ連絡しておけば、コワレ物として慎重に扱ってくれるため、破損を心配する必要はほとんどないと思われる。実際、今回の同行者の二人はクロスバイクを輪行袋に入れて手荷物としたが、破損等の問題は全く生じずに帰国した。また、念のため、空港で自転車事故もカバーされる掛け捨ての保険に加入したが、道路事情のよさ等からこれが必須だったかどうかは微妙である。

自転車で旅する何よりのメリットは、時間や駐車場等の心配がなく自由に色々な場所を訪問・見学できること、田舎や都会の郊外にも気軽に泊まれることである。また、昼食や夕食を自由に選ぶことで、費用を安く済ますこともできる。実際、今回の旅行では、道沿いのガソリンスタンドのスナックコーナーで昼食を安く済ませ、夜は、到着地のスーパー

マーケットで購入した食品やお酒で安く夕食を済ますこともあった。ちなみに、今回のミュンヘンからウイーンまでのコースは、ビールとワインの名産地であり、水より安いビールとワインを思う存分楽しむことが出来るのも、今回のコースの大きな利点である。

自転車で欧州、特にドイツ、ベネルクス 3 国、オーストリア等を旅するメリットは、何といっても自転車に対する国民の理解度が高く、国中に安全で快適な自転車専用道路が整備されていること。また、さらに、これら国では、自転車と一緒にほとんど全ての交通機関（電車、地下鉄、船等）に自由に乗れることである。事実、今回の私達の旅行でも、到着日に組み立てた自転車を一度もたたむことなく空港まで戻り帰国した。

今回のコースを我々は 15 日間かけて回ったが、一日の走行距離は上述の如く 50km であり、正直、これは、サイクリングを趣味とする人間には物足りない距離であったかもしれない。道路事情が良く、日本に比べてはるかに楽に走れる現地では、一日 70~80km は無理なく走れる距離である。また、今回の我々の旅では、ゆっくり市内見物を楽しむため、ウイーンとミュンヘンに各 3 日間滞在したが、これは短縮できると思われる。これらを考慮すると、同じコースを 7~8 日間の日程で回ることは十分可能であり、長期休暇が取り難い現役の方々にもお勧めのコースである。

最後に、一点注意事項を付記すると、現地、特に田舎の地で宿泊先を探す場合、出来れば夕方 4 時くらいまでには決める必要がある。現地は夜遅くまで明るいが、営業中のホテルや宿はもちろん、旅行者用の案内所も午後 5 時には担当者(責任者)が誰もいなくなることが多く、宿探しに苦労することがあり得るからである。

長くなったが、私自身は未だ自転車歴が浅く、輪行経験も少ないが、今回のドナウの旅を体験して、自転車を趣味とすることの有り難さを本当に実感させられた気がしている。今回の拙文が、サイクリングを趣味とする方のお目に留まり、海外輪行に挑戦したいと思われる方が一人でも増えることを願って筆を置きたい。

ドナウ川沿いにある案内表示

我が自転車と街中の案内表示

ロードバイクも安全に駐輪

市内各所にある貸自転車置き場

途中見掛けた自転車野郎

交差点は乗ったまま信号待ち

地下鉄は犬、自転車 OK

地下鉄に乗る我が自転車

ローカル列車は座席を倒し収納

国際高速列車の自転車置き場-1

国際高速列車の自転車置き場-2

ドナウ川自転車専用道路を走る